

第 11 回研究大会概要

(1994 年度会報より)

第 11 回研究大会の主な内容は、次のとおりであった。

(1)日時：1994 年 9 月 23 日 (金) 14 : 00～17:30

24 日 (土) 10 : 00～15 : 00

(2)場所：9 月 23 日 神戸国際会議場, 24 日 関西学院大学

(3)研究発表

講演会 (9 月 23 日 14 : 00～15 : 00)

司 会：藤田 幸男 (愛知学院大学)

講 演：Gary K. Meek (Oklahoma State University)

“Teaching International Accounting: What Should a Course Contain?”

統一論題報告 (9 月 23 日 15 : 10～17:30)

テーマ：「国際会計の教育・研修」

座 長：小澤 康人 (専修大学)

報告者：松本康一郎 (小樽商科大学)

「日本における国際会計教育の現状——講義担当教官の経験」

菊谷 正人 (国士舘大学)

「国際会計教育の課題」

笠井 操 (松下電器産業㈱)

「現地経理幹部の育成について」

中地 宏 (監査法人トーマツ)

「会計・監査実務家のための国際会計の教育の研修について
—監査法人における現状とこれから」

自由論題報告 (9 月 24 日 10 : 00～11 : 55)

司 会：後藤 文彦 (京都産業大学)

報告者：辻 峰男 (神戸大学大学院)

「金融商品を中心とするオフ・バランスシート取引の英独仏

三ヵ国会計比較」

林 良治 (近畿大学)

「決算書類の国際比較についての一考察——独・米企業分析
を中心にして」

司 会：上妻 義直 (上智大学)

報告者：小津稚加子 (静岡県立大学)

「会計技術移転のフレームワークフランス語圏の経験から」

統一論題討論 (9月24日 13:00~15:00)

座 長：小澤 康人 (専修大学)

報告者：松本康一郎 (小樽商科大学)

菊谷 正人 (国土舘大学)

笠井 操 (松下電器産業㈱)

中地 宏 (監査法人トーマツ)

コメン：小澤 義昭 (中央監査法人)

テータ 原 光世 (龍谷大学)

高松 正昭 (明治学院大学)

懇親会

懇親会は、9月23日18時より神戸ポートピアホテル偕楽の間において、宮本寛爾準備委員の司会で開催された。まず、平松大会準備委員長からの歓迎の挨拶があり、続いて小川会長の挨拶があった。当日講演を行った Meek 教授からも、1994年がルカ・パチオリによる『スンマ』出版500年記念の年であり、この偉大な複式簿記の遺産を誇りに思うとの話を交えた挨拶の後、染谷恭次郎早稲田大学名誉教授(初代会長)がこれを受けて乾杯の音頭をとり、開宴した。歓談の後、19時30分に盛会裡のうちに閉会した。